



東小松川だより

令和7年4月7日（月）
江戸川区立東小松川小学校
4月号

令和7年度のはじまりです はじめましてよろしく申し上げます

校長 藤島 寿晴

花便りが聞かれる季節とともに、新年度がやってまいりました。4月7日の入学式では、新入生122名を迎え、全校児童638名、21学級で江戸川区立東小松川小学校の令和7年度の教育活動がスタートいたしました。お皆様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は北小岩小学校より転任して参りました 藤島 寿晴（ふじしま としはる）と申します。5年前まで同じ地区の大杉小学校にいました。その当時は、旧校舎の東小松川小学校の校庭が5月の中央地域まつりパレードのスタート地点だったので、コロナ騒ぎで中止になるまで毎年来ていました。久しぶりに訪れると以前の面影が全くないスタイリッシュな姿に驚きました。古い校舎も味わい深いものがありますが、美しい建造物で行われる様々な活動には大変期待するところがあります。これまで新校舎竣工までに多くのご苦難の中を東小松川小学校長として学校をまとめ、率いてこられた高木伊織先生には、心より敬意を表するとともに、素晴らしい環境をご用意いただいたことに深く感謝を申し上げます。

4月1日から数日間は降雨が続き、また数十年ぶりの低気温ですっきりとしなかった令和7年度のはじまりでしたが、子供たちの今年度初登校、そして新一年生の小学校入学第1日目となる本日は、東小松川小学校の新生活の門出をお祝いするかのよう清々しい一日となりました。（当然この文章を作成しているときは7日以前ですので、天気予報と私の強い願望で書いています。）

学校という場所は、子供たちが学ぶ場所として認知されていますが、その学びとは何かについて「ザ・ブルーハーツ」のボーカルだった甲本ヒロトさんが以下のように言っています。

「（クラスは）同じ年に生まれた近所の奴が同じ部屋に集められただけじゃん。趣味も違うのに友達になれるわけじゃないじゃん。山手線に乗ってて、『はい、この車両全員仲よく友達ね』って言われても、『いや、偶然今一緒に乗ってるだけなんですけど』って。ただ、友達じゃないけどさ、喧嘩せず自分が降りる駅まで平和に乗ってられなきゃダメじゃない？その訓練じゃないか、学校は。友達でもない仲よしでもない好きでもない連中と喧嘩しないで平穩に暮らす練習をするのが学校じゃないか。」

言葉だけ取り上げれば過激な印象を与えますが、私はこの考え方には共感します。学校で働く身だからこそ、子供たちに楽しんで過ごしてほしい、保護者に安心してお子さんを預けてほしい、地域の方々に対して自慢の存在であってほしいと本気で思っていますが、すべての人々が毎日満足してくれるということは不可能です。思い通りにならないことや理不尽さを感じるものが必ずあるでしょう。主張が通らないからという理由で強引な手法をとっても上手くいくことはほとんどなく、トラブルになってしまうことが学校内外でよく見かけます。前述の言葉のように、学校はどうやったら上手くいくか、いろいろ試して失敗して「学ぶ」場所だとすれば、私たち教職員は、そのような場と機会を適切に提供することが仕事で、保護者・PTAの方々にはご理解していただいた上で、ご協力をいただくこととなります。であれば、ぜひ子供たちだけでなく私たち大人も地域の皆様にとっても、今より高みを目指すような機会と場がこの東小松川小学校でありたいと思います。

私の学校経営方針は、以前から勤める学校が変わっても同じです。私の学校観・教育観を表したものです。（受け売りですが）ロックバンドONE OK ROCKの曲名にある“Stand out fit in”（訳：はみだしてなじめ）が根幹にありますので、この方針の詳細については徐々にお伝えして参ります。これから何卒よろしく申し上げます。